

みんなが教えてくれた

益田市立美都中学校 三年 永谷鈴菜

みなさんは吃音について知っていますか。

吃音には、話すときに最初の音が出ない、同じ言葉を何度も繰り返してしまうなどの特徴があります。私の吃音は、「難発」と言って、少しの間無音状態が続きます。

この吃音によって、私はこれまでに、とてもつらい経験をしてきました。例えば、休日に弟の友達が遊びに来た時の出来事です。その子は私の吃音を知っていて、わざと絵本を読ませようとしたのだと思いました。「ちょっとだけ読んで」と頼まれて読むと、吃音が出てしまいました。すると、その子が、吃音をまねしたのです。その時私は、とても悲しくて、恥ずかしくて、悔しかったです。そして、吃音のある自分自身に腹が立ちました。

他には、登下校中に出会った地域の人に、挨拶できないことが辛いです。「おはようございます」、「こんにちは」と言いたいけれどなかなか言えません。母に「挨拶をきちんとしなさい」と怒られ、悲しい気持ちになりました。

普段の生活の中で、ここでは言い切れないくらい、悔しくて悲しい思いをたくさん経験してきました。だから、私は大嫌いでした。みんなと同じように、すらすらと喋ることができない自分が。

中学校に入学すると、先輩方が気さくに話しかけてくれました。しかし、私は、すぐに言葉が出ません。出身小学校が違う先輩は、そんな私を見て困ったような顔になりました。「先輩を困らせてしまった。気を悪くしたかもしれない。」と心配になりました。

それから数日たったある日、またその先輩が話しかけてきました。私が答えるのを、その先輩は笑顔で待っていてくれました。すると、楽しく会話することができました。なんで今日は、私の言葉を待ってくれていたのだろうと不思議に思いました。実は同級生が先輩方に私のことを伝えてくれていたのです。私の吃音を、みんなが受け入れようとしてくれていたのだと、後から知ってうれしかったです。

それからの学校生活では、部活動や掃除の反省の時間は、みんな私の言葉を笑顔で待っていてくれます。困っているときは一緒になって言葉を言ってくれるようになりました。私の言いたいことを理解しようとしてくれていると感じると、安心できました。

そんなみんなのおかげで、楽しい学校生活を送っていました。それでも、私は、なかなか自分に自信を持つことができないでいました。周りのみんなは、私を支えようとしてくれるけど、どうしても積極的になれない自分がいたのです。そんな私に、ある日友達が、「すーちゃんは素敵だよ、そのままいいんだよ」と言ってくれました。

その言葉を聞いて、はっとしました。改めて考えてみると、私は、自分のことが嫌いで自分の考えを口に出すことを、どこかで拒否してきました。でも、美都中学校のみんなが教えてくれました。私は私のままでよいということ。ありのままの私を受け入れて、認めて、大切にしてくれました。だから、私も、みんなが大切にしてくれた私自身を大切にしよう

決めました。

今、私は中学三年生です。これまで支えてくれた美都中学校のみんなと別れて、一人になるかもしれません。もちろん、不安はたくさんあります。でも、大丈夫。自分は素敵な存在だとみんなが教えてくれたから。